

乙第百拾壹号

十月廿日調

長官書

原一等爲調

二等之位

記發保

書記官

魯國汽船遭難ノ義上申

魯國汽船アライルデンスケルト辨本年八月廿日當使管下
 路國厚岬郡落石村字コレマト天狗岩ト向ニ深霧ノカ
 津瀬ノ葉寄セ船體轉覆ヤントセニ依リ最寄在勤當使
 官貞連ニ出張厚ノ救援致シ別記人名無恙上陸諸貨
 物ニ過半揚陸相成候旨船長外一名ハ該船処分方結局マ

其所ニ滞在致シ、其他ノ者ニ函館港迄ノ便航ニ乗組ガ当使
 吏貞護送該港、魯國領事駐劄無シ、尙横濱港ニテ
 護送同港ニ於テ領事ヘ引渡候旨函館支廳ヨリ届出候条
 此段上申候也

（案）十月十二日

明治十二年十月廿六日

前杯長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

魯國汽船 アイ、ル、テ、ン、ス、ケ、ラ、ハ、ト 船乗組人員

船長

エチ、セ、ン、グ、ス、ソ、ツ、ケ

學士

ア、グ、リ、ゴ、リ、イ、フ

司

ア、ダ、ン、カ、ル、マ、ン

一等運用手

イ、ネ、ル、ソ、ン

二等運用手

エ、ン、ヨ、ウ、ル、ス、ト、ラ、ン、ド

機関士

ニ、ベ、イ、ル

司

ヨ、ネ、ル、ソ、ン

外
水大夫小使料理方從僕
拾人

合拾七名

右之通り

乙卯年百拾貳号十月廿六

長官也

原一等属調

三等出仕

記録課

書記官

役檢疫局領内義上申

虎列拉病流行之際に函館港へ役檢疫局設置候

義本年乙卯九拾五番引以テ及上申置候處該病目下

已ニ撲滅ノ毒ニ付役檢疫局領内候条此段上申候也

明治十二年十月廿六日 副長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿